

四国で行われている クマの調査

四国のツキノワグマが暮らしている剣山周辺では、専門家などによりさまざまな調査が行われていて、そのことで明らかになった事実がたくさんあります。また、イベントやアンケートなどで、地域住民の方などの声を集めています。シカ・サル・イノシシの被害に困っている人が多く、自然林を増やして野生動物の生息地を整備したほうがいいという意見が多数ありました。

ヘアトラップ(体毛調査)・自動撮影



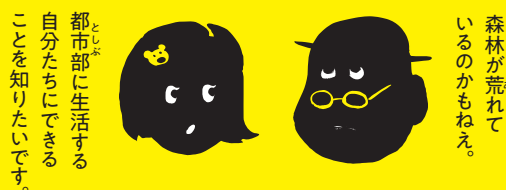
GPS調査



ドングリ調査



住民意識調査



野生のツキノワグマを守るための動物園の取組

四国で野生のクマがケガや病気で保護された場合、地域のクマを守るという観点から、動物園はそのクマを受け入れる役割を果たします。治療を行い、自然に戻すことが第一ですが、野生で生きていくことが難しい場合は飼育します。飼育スペースの問題もあるため、四国では複数の動物園が連携し、緊急事態に備えています。

みなさんへのお願い

四国のツキノワグマを絶滅から救うためのご協力をお願いします。

1

LINEスタンプでツキノワグマを守ろう!



有料スタンプが寄付につながります。

2

寄付サイトへのご支援をお願いします!



ヤフー募金 JAPANGIVING

*いただいたご寄付は、四国でのクマの調査や、クマと人との関わりを考えるワークショップの開催などに活用させていただきます。

3

この看板で知ったことを「#四国ツキノワグマ」をつけて、SNSでつぶやこう!

多くの人が四国のツキノワグマの現状を知ることにつながります。

4

四国のツキノワグマを守る活動を行う団体への応援をお願いします!



日本クマネットワーク 人間とクマとの共存を考えるNGOです。

四国自然史科学研究センター 四国の自然環境を次世代に残す活動を行っています。

日本自然保護協会 日本で最も歴史の古い自然保護のNGOです。

四国ツキノワグマ保護プログラム
SAVE ISLAND BEAR
ツキノワグマの生息する世界で一番小さな島

四国ツキノワグマ保護プログラム
SAVE ISLAND BEAR
ツキノワグマの生息する世界で一番小さな島

四国の
ツキノワグマを
絶滅から救おう



大きくてかわいらしいクマは、動物園の人気者。
だけど、四国にいる野生のツキノワグマが、いま絶滅の危機を迎えています。
私たちの身近な動物として、クマのことを知ってください。

Save The Island Bear SOS!

日本にいるクマは2種

ツキノワグマとヒグマ。日本にはこの2種のクマが生息しています。ヒグマは北海道のみで、そのほかの地域に幅広くいるのがツキノワグマ。胸に月の形をした白い毛が生えているのが特徴です。しかし、九州にいたツキノワグマは絶滅したとされています。



ヒグマはとても大きく、ツキノワグマに比べると約2倍もの体格になります。ツキノワグマは、アジア地域に広く生息し、日本にいるのは“ニホンツキノワグマ”という固有亜種。

本州以南では、 一番大きな動物

北海道を除く日本の陸上に住む哺乳類のなかで、ツキノワグマはもっとも大きな動物です。とはいえ、大きなオスでも、体長は約120cm、体重は70～100kg。人間の大人よりは少し小さいくらいのサイズです。冬眠に備えた秋頃には、たくさん食べて1.5倍くらい太ることも。食欲の秋は、人もクマも一緒ですね。

大きさの比較



クマの好物って何？

ツキノワグマは雑食性のため、比較的何でも食べる動物ですが、ドングリなど植物を好む傾向が強いです。季節や住む地域によって、柔軟に食べものを変え、四国のツキノワグマは、草本や花(春)、サクラ類の果実やアリ・ハチ(夏)、ブナやミズナラのどんぐり、ミズキやアオハダの果実(秋)をよく食べます。



クマは人を襲うの？

基本的には、クマが積極的に人を襲うことはありません。とても臆病な動物なので、人に会って逃げます。しかし、急に近づいたり、子グマを連れていて、身を守るために襲うこともあります。また、生ゴミなどを放置してクマが人の食べものを覚えると、人との距離が近くなり事故の危険性が高まることにもつながります。クマと出会わないためにも、クマが人の近く

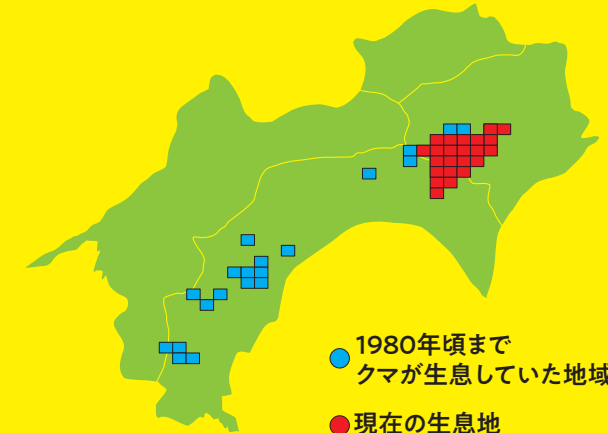


冬眠の不思議

食べものが少なくなる冬に、クマは冬眠をします。その間は基本的に、食事をとることも、水も飲むことなく、ひたすらじっと巣穴の中で過ごします。体重が約3割も減るため、冬眠は過酷な時期ともいえます。期間は数カ月とされていますが、地域や年によって変化します。また、オスは比較的短く、子連れのメスが長い傾向にあるようです。

四国のツキノワグマはどこにいるの？

四国のツキノワグマは数が少なく、徳島県の剣山とその周辺地域のにひっそりと生息しています。1980年頃までは、四国西部の高知県と愛媛県の県境周辺の地域にもツキノワグマがいました。しかし、1985年に高知県で捕獲されたクマを最後に、四国西部からはツキノワグマはいなくなっていました。



四国のツキノワグマは たった20頭……

1996年の時点では、四国のツキノワグマは50頭未満と推測されていましたが、近年の調査では10～20頭ほどしか確認されていません。この数字は、絶滅の危険性がとても高い状態にあることを示していて、2040年頃には約60%の確率(最大値)で絶滅するとされています。環境省のレッドデータブックでも「絶滅のおそれのある地域個体群」として評価されています。



四国のツキノワグマは どうして少ないの？

人がクマの環境を変えてしまったこと、そしてたくさんのクマを狩猟したことが大きな原因です。戦後、資源不足のため、日本全国で自然の林が切られ、木材として使いやすい杉など

の木がたくさん植えられました。杉の林は、クマの食べものが自然の林に比べて少なくなります。それで、クマが住む地域が急激に狭くなってしまいました。また、四国では、昭和の初めより、林業被害をもたらす害獣としてクマを駆除することが奨励されてきました。クマの数が少なくなった現在では、捕獲が禁止されています。



クマ剥ぎ。クマが糖分を含む形成層を食べるために樹皮を剥いだ痕。木が枯れることもあり、林業被害とされています。

同じクマでも、 「四国のクマ」が大切 なんです

“ニホンツキノワグマ”は日本にしか生息していない固有亜種ですが、遺伝的には、東日本グループ、西日本グループ、四国・紀伊半島グループの3つのグループに分かれます。生物多様性では、遺伝的多様性も重要と考えられていますので、四国でツキノワグマを保全することが必要になります。



ツキノワグマがいなくなると、 どう困るの？

自然におけるクマの大きな役割の一つが、種子を散布すること。植物は種を遠くまで移動させるために、動物に種を食べてもらい、その動物が移動した先で糞として出してもらいます。そういう動物を「種子散布者」といいますが、なかでもクマは、たくさんの種を食べ、移動する距離も長い、特別な動物です。また、多様性のある生態系を守るためのとても有効的な方法として、生態系の頂点にいる動物を保護するという考え方があります。その場合、生態系の一番上にいる動物をアンブレラ種といいます。ツキノワグマもアンブレラ種の動物で、広い生息地のなかでいろいろなものを食べます。ツキノワグマを守ることは、その地域の植物や動物たちを守ることにもつながるのです。



サクラの種子がたくさん混じったクマのフン。消化されず、そのままの形で残るため発芽し、木へ育ちます。